

★わたしの意見

「人間学運動」と

いうこと

青木 啓

〈ラジオ関西社長・人間学研究会代表理事〉



今年は年賀状に「人間学運動の提唱を発願しております。」というような文句を書いた。昭和四十一年から、「ラジオによる人間学講座」という放送をはじめ、同時に「人間学研究会」という集まりをつくって、放送や講演会や座談会などを通じて「人間学」を語り合ってきた早いものでそれが丸七年になる。この間「ラジオによる人間学講座」の聴取者で「人間学研究会」の会員になった人たちの数も相当の数になっている。

一昨年「私の人間学」というお恥しいような小著を出し、関係先にお贈りしたところ、意外なお賞めの言葉を頂いたりして恐縮したが、昨年の十月にはまた全国民間放送大会で「ラジオによる人間学講座」が放送活動部門での最優秀番組賞を受賞したりしてまた面喰った。七年間「人間学」「人間学」と言ってきたことが漸く発酵してきたのかなという感慨もする。

同じ人間学の発想から昨年の四月にはまた「神戸芸術学林」という寺小屋式大学をつくった。洋画科、日本画科、陶芸科の本科生合計生徒数十三名、先生も生徒も仲間意識で人間学の実践と創作芸術に打ちこんでいる。財政的な基盤も用意もなく、一途な実験的情熱と意欲ではじめてしまった仕事だから忽ち財政窮追で困っているがみんなて托鉢行でもやって切り抜けて行きたいと思っている。「人間学」というのは本来人間が自らの内側に向っての勉強であらう。不在勝ちな自己を見出し、病んで歪み勝ちな自己を回復することに向って実存としての人間を問い続けてゆく認識と実践の学なのだとすることが出来るだろう。私が年賀状に書いた「人間学運動の提唱」と言ったような言葉の組合せは、その意味ではいささか自分でも短絡の感がしないでもないが、みんなで「人間」という根元の次元に還って出直そうという呼びかけは、ひとつの理念運動として無駄なものではあるまいと思うのである。できることならそれを私たちの地域社会の運動の合言葉として言い続けてゆきたいと切望している。

★月刊「神戸っ子」13周年記念文化賞

BM

ブルー・メール賞

第3回受賞者発表 〈副賞各部門拾万円〉

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの三月号で十三周年を迎えました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と深く感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第三回「ブルー・メール賞」（青い海）を設定し、各部門別に選考座談会を行ったうえ、左記の四人の方々に賞をお贈りすることになりました。

また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に十万円が授与できることになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

音楽部門

選考委員

吉村 一夫・柴田 仁・小石 忠男



上月 倫子

〈洋舞家〉

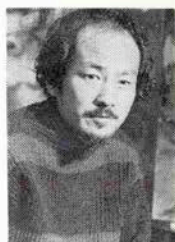
モダン・ダンスが盛んな神戸にあつて、そのなかで近來、クラシック・バレエの古典的作品にとり組んで、神戸のプリマにふさわしい仕事をされてきた上月倫子さんのブルー・メール賞はまことに妥当と思います。

〈柴田〉

美術部門

選考委員

高橋 亨・増田 洋・伊藤 誠



小西 保文

〈画家〉

昨年、タブロー作家の個展の中で非常に印象深い個展を神戸と東京で開いた。例年立体造形の方に賞が行くので今年はタブローの中でいい仕事をした人に賞を———と思っていたところの彼のこの活動。何よりもずっと貯めていたエネルギーを爆発させたという点をかいたい。

文学部門

選考
委員

阪口 保・小林武雄・赤尾 兜子



小泉八重子

〈俳人〉

小泉八重子さんは『水煙』で、十七文字の句のなかに、あるひとつの超絶した自分の世界を発見したようだ。この句集を読んでいると、それが、一人の女性の歩んできた歴史のように現れてくる。将来性のある女流俳人だ。〈小林〉

芸能部門

選考
委員

沼 艸雨・小泉 康夫



吉井 順一

〈能楽師〉

吉井順一師の芸風は人柄をそのままに映したように格調が高く、とくに舞い姿の良さは定評がある。故吉井司郎師の芸風をよく伝えて、観世の正統派として高く評価され巾広く活躍している。この受賞を契機に一層の精進を望みたい。〈小泉〉

★副賞協力 会社ご紹介

石野証券株式会社	神栄株式会社
ウシオ工業株式会社	角南商事株式会社
オールスタイル株式会社	株式会社 そごう神戸店
川崎重工業株式会社	株式会社 大丸神戸店
株式会社 神戸製鋼所	株式会社 太陽神戸銀行
島文工業株式会社	バンドー化学株式会社
	〈アイウエオ順〉

★選考についての各部門座談会を本誌二五頁より掲載いたしております。



●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に

末積カーポートビル

近代的な
立体駐車場
150台OK



●普通車30分＝¥100

スピーディな駐車 親切的な応待—

■冷暖房完備・TV付の

待ち合い室もあります。

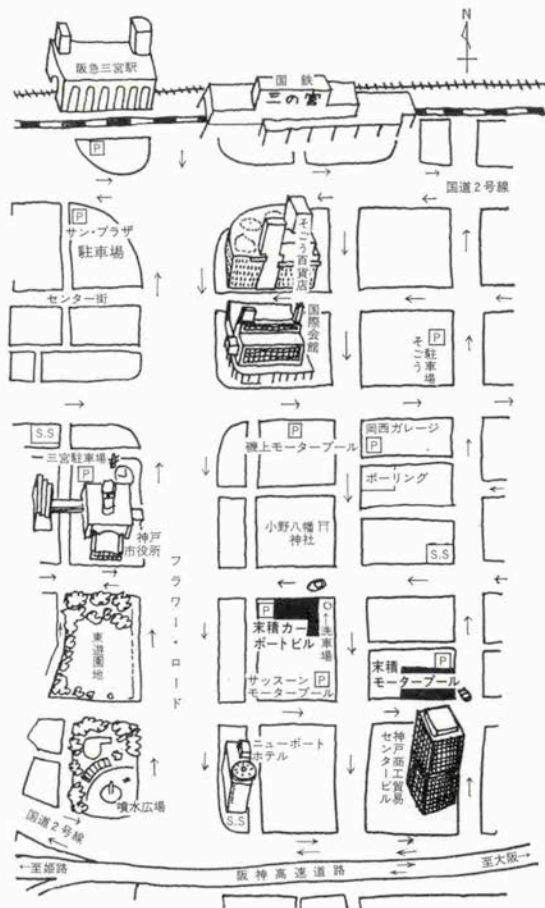
■あさ8時——よる10時(日・祭日営業)



末積株式会社

神戸市葺合区磯辺通4丁目6番地ノ2

TEL 078 (221) 9 8 8 7



'74「神戸っ子」13周年記念

B&M

ブルー・メール賞

音楽部門選考座談会

洋舞一筋の上月倫子に

吉村一夫〈音楽評論家〉

選考委員

柴田 仁〈音楽評論家〉

小石忠男〈音楽評論家〉

吉村 小石さんの方から候補者を

あげてみてよ。

小石 じゃ、具体的に出していき

ましようか。小沢雅世、岡村晴

子、関晴子、伊藤ルミ。ここまで

はピアノ。それから、テノールの

松本幸三、田原祥一郎……。

吉村 たしか、小沢雅世は昨年、

大阪文化祭賞をとってるな。だか

ら、ブルーメール賞を出すならタ

イミングとしてはいいわね。もっ

ともダブってしまうけどな。そこ

らの兼ね合いが難しい。

柴田 松本幸三も同じ賞をとって

ますね。

吉村 松本幸三はエエと思うな。

地味やしね。それに若くない。

小石 松本幸三は重要候補です

ね。小沢雅世はどうですか。

吉村 ただ音楽性がもう一つだ

ね。

小石 岡村晴子はヤマハのリサイ

タルをやりましたね。彼女は神戸

つ子です。関晴子は芦屋。モーツ

アルトサロンです。伊藤ルミはコ

ンチェルト。毎日ホールでやりま

した。松本幸三も毎日ホールです

ね。

柴田 大阪での活動が多いです

な。まあ、神戸もやつと文化ホー

ルができたのでこれからは活発に

なるでしょうが。

小石 ホールはできたけれど、音

楽活動は少ないですね。よく使っ

ているのはアマチュアのコーラス

なんかで、プロはあまり使わな

い。大阪でやりますね。ここらが

問題でしょうね。

吉村 どうせやるなら大阪の方が

効果的やと思っとるんやろな。

柴田 神戸は長らく音楽とは縁の

ないところみたいになつていたか

らね。国際会館ではやらなかった

し。

小石 他にはどうですか。

吉村 伊藤ルミなんか神戸っ子ら

しい感じがするけどね。それに、

音大出じゃないね。

小石 まあ、神戸らしいことは神

戸らしいですね。岡村晴子も。

吉村 伊藤ルミは音楽性はあるが

テクニクはもう一つだし、関晴

子は逆にテクニクはいいが、音

楽性はもう一つ。(笑)



華麗に白鳥を舞う上月倫子と王子は久光孝男



吉村一夫さん

小石 関晴子は東京の人ですね。
しかし、巧いことは巧いですよ。
吉村 テクニクはいいね。小沢雅世も巧いことは巧いんだが。
小石 いや、そりゃ関晴子の方がはるかにいいですよ。小沢雅世は関晴子ほどには手が動きませんね。

柴田 テノールの高丈二(黄耀明)は神戸ではやってないのですか。

吉村 「第九」をやった。

小石 国際会館ですね。

吉村 それぐらいかな。

小石 田原祥一郎は新鮮さという意味じゃもう一つというところですね。

吉村 今さらという感じだね。何かヒットがあればいいんだが。

柴田 賞をもらったことは？

小石 ないですね。

吉村 エエ声やけどね。

小石 田原祥一郎なら高丈二の方がいいかも分りませんね。

吉村 そりゃ、その方がいい。

小石 東京の団伊玖磨作曲「ひかりごけ」と神戸の「第九」ですね。

吉村 朝比奈千足はどうだろう。

柴田 まだ業績がないですね。

吉村 大阪でやってるんだろう。

柴田 あれは五人のグループでやっていたので、朝比奈千足だけにというのはおかしいですよ。

吉村 彼はこれからもチャンスがあるだろうしね。

小石 彼はこれから出てくるでしょう。

吉村 もう少し広い視野からみて誰かいませんか。

柴田 伊丹のアマチュアの集団がやった空港公害を扱った合唱劇で「もう飛ばないで」というのがありました。指揮と編曲が多田泉という若い人です。五月に伊丹、十月に尼崎の各文化会館、一部は神戸文化ホールでもやりました。アマチュアのものだから完璧じゃないけれど感動させられましたね。

吉村 こころへんで一応候補が出揃ったようだね。

小石 他には、神戸放送児童合唱団の大熊誠。彼は合唱団を率きつ

れてフランスのマルセイユへ行きました。それとテレマンアンサンブルの延原武春。作曲家の徳永秀則は昨年六月のISC M国際現代音楽祭に日本代表として参加した

伊丹在住の人ですが、日本よりアメリカで高く評価されているんで

すね。非常に優秀な作曲家で長田区の学校で教えています。

吉村 徳永秀則は何かのきっかけがあったら、賞を出すのは、そのときでいいんだよ。下手に出しにくい。(笑)

柴田 芦屋のルナホールではグループ筆がオペラをやりましたね。

小石 考え方として、集団でやった一つの仕事に対して出すべきか

それとも、仕事と将来をかってその個人に出すのか、そのへんをハッキリさせた方が候補をしほりやすいんですが……。僕としては個人にやりたいですね。

吉村 確かに対象をしぼらんとアカンね。

柴田 個人に出す方がいいですね。

吉村 だから、もつと視野を広げてみないとね。

小石 バレーなんかにはないですか。やっぱり、音楽部門の候補に

あげないといけないんじゃないですか。

吉村 そうか。バレーも音楽部門に入れないとア坎のやな。そう

しないと片手落ちになるね。

小石 上月倫子が神戸文化ホールでやった「白鳥の湖」はどうだったんだらう？ 国際会館で合同で

やったときの「白鳥」は観たんですが、あれはよかったですね。と

ってもよかったです。あのときは



柴田 仁さん



小石忠男さん

で「白鳥」の編成をして文化ホールのオーブニングで全曲をやったんです。

★今後の期待も込めて上月倫子に吉村 そろそろ詰めに入るか。音楽の方が弱ければバレエを考えようや。

小石 バレエなら上月倫子に出したいですね。

吉村 そうだな、音楽の方はもう一つ決め手がないしね……。

柴田 でも、バレエはこれからという可能性の方が強いんじゃないですか。

吉村 だから、その可能性をかつてもいいんじゃないかなあ。

小石 そしたら、来年まで待ちますか。

柴田 いや、もうチョットいろんなことをやるのと違うかなあという気もするんですがね。

吉村 じゃ、音楽の方で煮つめていくか。

小石 じゃ、音楽で一人煮つめてそれとバレエとを比べましょう。

吉村 今まで出たうちから外して行こうか。朝比奈千足はエエわな。

小石 特にないですね。

吉村 特異性からいって「もう飛ばないで」は残しとこうや。それから、田原祥一郎も外すか。松本幸三は残そう。高丈二も残そう。

小石 それからピアノ。

吉村 関晴子、小沢雅世、徳永秀

則、延原武春……もう一つだな。小沢は文化祭賞をもらっているし。

小石 これで岡村、伊藤、松本、高、それと「もう……」が残りましたね。

吉村 こうなつてくると高が最有力候補になってきたな。

小石 他で賞を貰ったものを外すとなると松本も外さないよ。

吉村 そうだな。それと、国際都市神戸ということで高にやつてもエエと思うけどな。

柴田 神戸らしいということですね。

小石 ウーン。しかし、神戸での活動ということでは上月の方が強いですね。高はそもそも神戸におらんからね。弱いですよ。

吉村 おらんな。もつと神戸でやつてくれんとね。

柴田 それが弱いですね。

吉村 そうなると、どうやらここで落ち着きそうだな。

柴田 彼女は今までに賞を貰ったこともないですね。

吉村 じゃ、上月でいいのじゃないですか。どうですか。

柴田 異論ないですね。

小石 いいですよ。

吉村 それでは上月に決定しましょう。今後、舞台でますます頑張ってくれるようにとの期待も込めてね。

(於 竹葉亭)

BM

'74「神戸っ子」13周年記念

ブルー・メール賞

美術部門選考座談会

独自の世界を展開する 小西保文に

選考委員

高橋 亨 〈美術評論家〉
増田 洋 〈県立近代美術館事業課長〉
伊藤 誠 〈神戸新聞文化事業部部長〉



元町画廊での個展「小西保文の世界」



高橋 亨 さん

編集部 ブルーメール賞も今年で三回目です。第一回目の山口牧生さん、第二回目の丸本 耕さんとも、受賞後ますます活躍され非常によかったなあと思っています。去年一年間の活動を中心に今年も選考をお願いいたします。

伊藤 大よその候補者をしぼってきました。一人は小西保文、秋の

元町画廊での個展、引きつづいての紀伊國屋画廊での個展の評判が良かったですね。有力候補だといえますよ。もう一人は河口龍夫バリビエンナーレでの地元からただ一人の活躍ぶり。努力は認められると思います。そしてもう一人は松本 宏。でも彼は金山平三賞を受賞したから何とも言えませんが、わりあいいい仕事ぶりだと思います。

増田 重ならないところで増田正和というのが頭の中にあります。河口さんは去年も対立候補として最後まで残りましたがもつと他のチャンスがあるのではないだろうか。と丸本さんに決定したんです。丸本さんは将来もう一度爆発する

だろうという期待と、〈Oの会〉の同人を育てている……同じような感じで増田正和も日韓彫刻展の事務局をあれだけ立派にやっただし作品も注目を集めています。

伊藤 一、二回目が立体造形の方へ行っているので今年あたりはタブローに受賞してもらいたいですね。層も厚くい人が多いしね。

増田 アサヒアートナウでいい仕事をした藤原向意も有力候補だと思います。仕事としては版画に入ることが版画として考えなくてもいいし。県展の工芸でデジオメトリックの押切隆志（染色）や山本和子（織物）が印象に残ってますね。伊藤 阪神間を含めての神戸っ子でなくてはいいかんのかな？ 彼女



増田 洋 さん

は姫路ですが先が楽しみです。

増田 押切隆志はまだ若いですね。

伊藤 作品発表は兵庫県では少ないが西村利夫は若手としては頑張っている。しかし、ボカーンと打ち出したものがないな。

増田 小西保文がでけると他は太刀うちができないね。地元でも中央でもいい発表があったし。彼は個展の回数が少ない。それだけ作品発表に慎重であったんだけどまとめて爆発させた効果は大きいね。今までの子供中心の一種独特の情緒に、今度は生の生活表現で



伊藤 誠 さん

はないが生活と密着した庶民感情が出てきてね。しかもあれは心象風景ですよ。

伊藤 いろんな方面の方に見ていただいても訴えるものがある。久しぶりに神戸としては見ごたえのある個展でした。

増田 絵かきさんが絵を描くという仕事ぶり、何をやっとなんねんいうのが多いからねえ。

伊藤 タブローに頑張ってもらいたかったのでもいい仕事を見せてくれたのがとても印象に残った。

編集部 去年の美術界の動きはどうでしたか？

伊藤 例年に劣らず活発であったと思います。発表の場も県立近代美術館ができてから外への影響が大きくなったと思います。神戸だけでなくいんですが画廊もふえましたよ。発表の場が増えるということはいいいことだと思います。

高橋 河口龍夫のアサヒアートナウの仕事にしても何にしても、あちこちで彼の仕事を注目しているんです。ブルーメール賞の手中を越えたと言うか……つらいことです。

伊藤 一回目でも話題になったのは現代の空間展で賞をとったという事でしたね。他で賞をとったからとこだわっているのは作家に対して申し訳ないと思いますよ。でもこの賞の主旨と対象から考えると

河口さんはもう卒業なさったように思えますね。年令的にはまだまだ若いですが。それに次ぐとすれば植松奎二は頑張ってるね。

増田 あの日韓彫刻展の作品もおもしろかったです。はつらつとしていて。

伊藤 彼も最初からいいセンスのものを連ねていますね。二三年前からの活躍も考えますと若いのによくやっているのので候補になると思いますよ。すぐ賞の対象にはならないと思いますが、石川晴久。彼もいい作品をもっています。

ユタカ順子ももう一つ足踏み状態です。文化センター・アートギャラリーで一〇〇人招待した中から半分くらいがこの賞の対象として出てくると楽しみです。

編集部 彫刻の方はどうですか？
伊藤 新谷沢子が帰って来たけど去年は神戸に関係なしで仕事していますのね。新谷琇紀も作品発表が活発だった。

増田 彼の場合は発想のマンネリ化がこたえていますね。イタリアへ行っって新しい面をとりいれてくるといいですね。彼の持ち味は日本のブロンズ屋ではでませんから。伊藤 今度帰ってくるのが楽しみです。専門のブロンズ屋をつれて来るか自分でマスターするかとに角、彼の持ち味は日本のブロンズでは出にくいのですよ。

増田 それと彼は形から入りすぎる。形を先に考えてしまつて作品の裏付けになる芸術的環境とか情緒が欠けている。みずみずしさがないのがつらいですね。県下の彫刻家全体が発表の場が多いわりに内容がものたりません。

伊藤 日本画もハッパがかかりませんね。人数が少なくて頑張つてはいるが若手でこれという発表がないですね。

増田 日本画の技術を身につけるのは時間がかかるんですよ。山種美術賞での新人でも50才、60才ですからね。画材を使いこなすという制約から時間がかかるんですよ。年令を別にして注目したいのは、昇外義。際だっているが作品が出てこないのが残念です。慎重なんですよ。

伊藤 山平義正、ヨーロッパへ行つて来ましたね。意欲的ですがまだです。特に向こうでの収穫は作品に表われていない。Oの会の実質的リーダーの古川清。今年は個展をやりたいと言つたので楽しみです。榎忠も作品発表が少ない方がいいものを持っています。

高橋 しかし何と言つても作品を見せてくれることが前提ですのですね。そういういみでは植松君は立派ですね。京都アンデパンダンでも常連だしそれなりの評価を受けています。

編集部 デザインや写真の分野はどうでしょう。

増田 ないですね。デザインの仕事としては実際にビジネスに結びついて、自分で芸術として湧きあがつてくるものを創り出すという時間がないんですよ。

伊藤 日本画で思い出しましたが丸投三代吉。高砂で個展をやりましたが、おもしろい絵です。一般の人でもとりつける、ほのぼのとした格式ばらない作品です。

増田 異色で詩があり文句なくいい作品です。多くの画家が失なっているものをもっている。

伊藤 笹山の陶芸展で個展をした市野重良。イギリス留学を終えて帰国した人だが立杭の本質と英国の影響のミックスでちよつと変わつてきたと評判です。

増田 鄭相和も神戸での発表は少なかったがサンパウロビエンナーレで韓国代表で行かれましたね。それから大切な人を忘れてました。鎌田糸平、描いて発表した状況が異色ですわ。それからもう一人藤田夢松。南画の人ですが設計技師で、東京と大阪で個展をやりました。最も筆を持ったのは子供の時からですがね。

伊藤 異色と言えば鴨居羊子も。きばつた絵でなくユニークな絵を描く。

高橋 〈Oの会〉の会としての活

動もおもしろいですね。

編集部 そろそろ候補者をしばらく待ちましよう。

増田 増田正和。小豆島でいい仕事をしたのと日韓彫刻展をまとめた。タブローでは小西保文、藤原向意ですね。どちらにしても仕事はいいです。

高橋 松本宏もいいが金山平三賞を受賞したし。

増田 ブルーメール賞のおさらいをすると、社会的な行動で刺激を与えてそれにつられて皆がいい仕事をするとなると……河口龍夫もいと思います。

伊藤 河口さんの場合は活躍ぶりにはもうブルーメール賞を卒業したという判断もできますし……。タブローに出してやりたいと思うのは刺激は社会的でないが美術をやるうという若者に対する刺激があるんですよ。

高橋 河口さんは若いのが皆が注目する活躍をしている。が、ある意味では卒業しているとも考えられますのでね。

伊藤 そういう意味の新人ムードは小西さんの方にありますね。うれいしいのは二人とも決して今にとどまる人ではないということですが可能性がりますしね。

編集部 今年はタブローにという事で小西保文氏の独特の絵の世界の伸びに賞を贈りたいと思います

家事の合い間に
お仕事の合い間に

オリエンタルホテル 料理教室

49年春組ただいま募集中

普通科 { 月・金 10:00～12:30
(週一回) { 月・金 14:00～16:30

研究科 { 火・水 10:00～13:00
 { 木 13:30～16:30

くわしいことは教室事務所へ
お問い合わせください。
(ホテル地下1階 ☎331-8111)

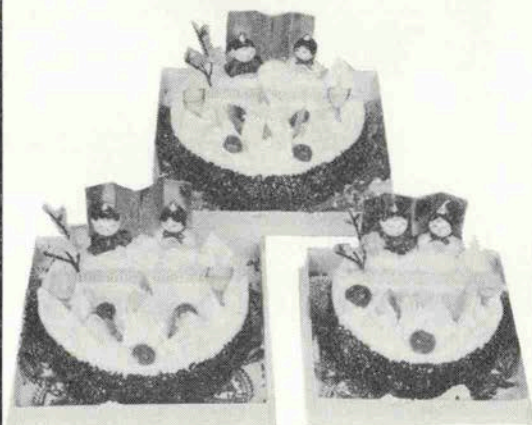
株式会社

オリエンタルホテル 神戸市生田区京町25



◀ サンテレビ奥さまタイムのワンポイントクッキングで活躍中の料理長

ひなまつりパーティー
楽しさいっぱい
ユーハイムのカークをどうぞ



¥700 ~ ¥1,200

その他、ご予算に応じて承ります。

ドイツ菓子

Fachrein's

ユーハイム

本店 三宮生田神社前
TEL (331) 1694
三宮店 三宮大丸前旧市電筋
TEL (331) 2101
さんちか店 さん地下
スイーツタウン
TEL (391) 3539
心斎橋店
TEL 06 (252) 0925

美術 古美術
骨董 書画 刀剣



▲ブロンズ「祖国」19世紀フランス ¥1,200,000

鑑定 買入

研 白鞘 拵 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 美術
古 骨董

元町美術

〒650

TEL 078-351-0081

BM

'74「神戸っ子」13周年記念

ブルー・メール賞

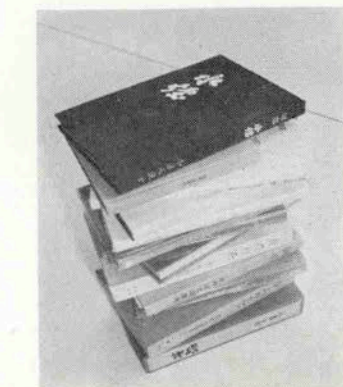
文学部門選考座談会

心象を追う小泉八重子に

阪口 保〈歌人〉

小林 武雄〈詩人〉

赤尾 兜子〈俳人〉



選考委員

編集部 第三回神戸っ子ブルー・

メール賞文学部門は、第一回同様、短詩文学に選考範囲を限り、現代詩、短歌、俳句の分野での選考をお願いいたします。

阪口 短歌では磯江朝子「黄の存在」、犬飼武「後夜」、上野晴夫「木魂祭」、木下幹也「紅薔薇」、藤原加須恵「ひとつのケルン」、藤田恒男「遠く近く」、北村庄太郎「鈍牛」など昨年もずいぶん出たようだ。

しかし犬飼は、半どんの会文化賞を受けているし、大先輩だから敬意を表するという意味で選考外ということにしては。磯江も若い人を育成する立場にある人だから、やはり選考の対象からはずす

方がいだろう。

残った中で誰を選ぶかということになれば、去年歌人クラブの新人賞を受けた上野だろうね。

小林 昨年の詩集といえば、まず

女性では福井久子「鳥と蒼い眸」、吉野立子「日々の詩」、男性では

鈴木漠「二重母音」、直原弘道「日常風景」、青田豊吉「雑草記」、

坂田聖峯「童顔」、それと姫路文学人会議の特集のような形式ですが、玉岡松一郎、鳳信治の作品集。

その他に先輩詩人の能登秀夫「年輪」、野沢修治、玉本格「亜大陸」、河合一の写真と丸本明子の詩の合作写真集など、年末に出版されたと聞いていますがまだ見ていません。

また富田碎花先生が、書家の出口草露の全文筆写、先生の短歌を版画家の上野長雄が版刻、全ページ和紙の豪華本詩集を出されたと思います。他に多田智満子、岡田兆功詩集も思潮社の叢書で昨年出ているでしょう。安水稔和は詩集ではありませんが「幻視の旅」を出しています。

赤尾 句集は小田慎次「戸守」、鈴木素風「夜振火」、越田青誠「古稀」、樫本翠邨「翠滴」、森以和子「旅路」、えつぐまもる「傷ついた葦」、小泉八重子「水煙」、坪内稔典「朝の岸」、森田峠「避暑散步」、後藤比奈夫「初心」、広田隆「百千の鷹」など。

永田耕衣は全句集を出し、大き

な業績はあるが、敬意を表して対象からはずす方がいいと思いますね。

樗本は故人となられた方だ。誠実に句柄も温好な、活躍された人だったが惜しまれます。

小林 樗本の句集「翠滴」は遺著になりましたが、達観した人生観が句のうしろに光っているような味わい深い句集でした。後藤、森田など俳句は四、五十代の人の処女句集ですが、詩人で還暦近い人の処女詩集というのは稀です。

能登の終始一貫した庶民的諷刺。ひとり静かに孤独を温めている野沢の抒情は、長い人生を通じてきた深い省察に裏打ちされた作品ですから、これも良い詩集になっていると思います。

玉岡、鳳、玉本たち還暦前後の社会派ともいえる詩人たちの鋭い批評は、さきの能登を含めてストリートに感情に訴えるわかりやすさを持っています。青田、坂田の



赤尾兜子さん

作品も分明さを持っているが、ただそのために発想の次元が、まます料にすぎることもあります。赤尾 後藤の「初心」も第一句集だが、この人は句暦30年と長い。森田も第一句集だが、むしろ出るのが遅かったという感じがありますね。

広田はやや異端の作風。小田は三木の人で、地方の風土性を持った句を詠む。この人たちが中堅どころです。

新人では小泉と坪内。小泉は女流だが、写生句でなくイメージ風の句で、女流としてはたいへん難しいところをやっており、才気があります。

坪内はまだ28歳ときわめて若い。今は評論活動をバリバリやっています。近く正岡子規を一冊書き下ろすとか。兵庫における新鋭として全国から注目されているが、この句集だけではまだ早い気がします。若いだけにもう少し見守りたいですね。

小林 若い可能性を含めて詩集を選ぶとすれば、みんな可能性のある人たちですが、詩人たちは自分の言葉、存在といった問題を言葉のはなはだしい消滅の中で追い求めている。

現実など誰にも予見できないのだ——という宙ぶらりんの中で、それだからこそ言語が持つ機能の中

に実在を求め続けようとしている鈴木。そこにひとつの答があると信じながら、なおいくつかの矛盾をひとつひとつ闘いとうとうと自分を説く直原。その直原の詩と言葉をむしろ象徴的に、けれども自己のものとして真摯に歌う福井のヒューマニズム。

作品的には、直原は思想家だけにそれ以外の言葉の使い方がないほどの必然性はあるが、硬直な部分もあって、却って詩的昂揚に欠けるきらいもあるが、これは立派な詩集です。鈴木の不毛の実在を問い続ける純粹希求と、福井の象徴性と、この三人は、簡単にいってしまふと、この言葉でない表現できないという深い詩語省察を感じさせる。

阪口 これでひとあたり出たわけだが、詩人で選ぶとすれば誰を推薦するんだね。

小林 詩人ではさきの三人が、それぞれの意味で秀れています。このうち一人ということになると第一回の時と同じように、私なりの詩に対する考えを前提とすることになってしまい困ります。

川柳は対象外でしょうが、時実新子という女性が句集を出していて、この人は有望らしい。川柳は見えないが俳句（青玄 同人）はとくに秀れているとは思えませんが名だけは挙げておきます。



阪口 保さん

そこで、詩、短歌、俳句を比較してどうこうということになると大変だから、第一ブルー・メー
ル賞が中村隆の詩集に贈られたので、今回は俳句と短歌の部に贈ることにはいかがでしょう。

阪口 福井の詩集はご主人が装幀していらしてね。私と同じ山手女子短大の同僚だからと思ったのだが、今回は諸般の事情もあるから俳句、短歌から選ぶことには賛成です。

赤尾 そうですね。

小林 句集、歌集で選ぶとして、



小林 武雄さん

若い可能性、ということ的前提にすれば句集では小泉八重子の「水煙」、歌集では上野晴夫の「木魂祭」でしょう。

阪口 そう。上野の歌は平明で、きわめて清純な抒情だが、とくに傑出性はない。上野には将来を期待することでしょう。

小林 ただ、この人のやさしい感性は貴重なものだ。今どき得がたい、清純性ともいうのでしょうね。ああいう感性にはマイってしまふ。

上野の抒情の美しい流れ、ほんとうにやさしい素朴な歌いぶりもいいが、詩としては小泉の句の方をとりたいですね。

小泉は47年以後、十七文字の句の中に、あるひとつの超絶した自分の世界を発見したようにみえる。この句集を読んでいると、それが、一人の女性の歩んできたひとつの歴史のように現れている。将来性のある楽しい句集だ。

そこで福井の詩と較べると、福井の「鳥と蒼い眸」は象徴というより象徴的段階といったものだが、小泉の句集も福井と同じような象徴性を持っているんですね。

赤尾 福井の象徴的な詩と、小泉の、これもかなり象徴的な句を並べると、福井はキャリアが長いだけに、総業績としてはこの人の方にあると思うが。

小泉には、これからもうひとつ大きなヤマがあると見ます。

阪口 なるほど。ご両人の意見がそういうことでしたら、小泉の句集を推薦することにしませう。

(竹葉亭にて)



「水煙」より

小泉八重子

添え乳して

いま燃え落ちる故郷の橋

脆き家や

つけ火に映える根なし草

流水去り産みの匂いの鯖節さかなづな

火の島や

茫々と秋刀魚よみがえれ

牛にまぎれて

姑ははは分けいる茸の山

'74「神戸っ子」13周年記念

ブルー・メール賞

芸能部門選考座談会

「道成寺」の演技で

吉井順一に

選考委員

沼 艸雨 〈能楽評論家〉

小泉 康夫 〈月刊「オール関西」編集長〉



「道成寺」を演じる吉井順一さん

小泉 昨年は神戸文化ホール、一昨年には神戸能楽殿ができてましてブルー・メール賞の方も過去二回日本舞踊が続いておりますし、能はめったにやる機会がありませんので、今回は能にしばって選考していきたいと考えております。

沼 地元での能の動きは？

小泉 活動としましては、神戸市が予算を出しまして、学生観賞能をやっております。去年だけで11回上演しています。神戸市の文化課が主催し、中心になって進めているのが、藤井徳三さんです。

沼 何人ぐらい観ていますか。

小泉 中学二年生を対象に一回四百人ぐらい観ています。市が予算を出してくれるのは能の立派な

考えますと結構なことで、神戸はいい環境が開かれています。

なお、昨年度の神戸での能の大きな催しといえば能楽殿完工一周年記念の「別会能」と文化ホールでの「神戸能」があげられましよう。

沼 芸術的な成績の上においての賞とするか、または、発展に対する功利的なもので違ってくるね。一応、芸術活動を軸として考えましよう。

考えれば神戸にいる能関係者が総力をあげたから、神戸能楽殿ができたということになるわね。そうなれば、そのトップである藤井久雄さんになるわね。彼がいなければ、結集できなかったでしょう

ね。

小泉 これは大変な功績ですね。沼 それに匹敵する人はいないでしょうね。

小泉 その観点からいけば、関西でも、これほどがんばった人はいないでしょうね。全般的にみまして、能の展望はいかがでしょう。

沼 大きい能か個人の発表会かという二つの傾向がありますね。大きい物は自分のものにならない欠点があるし、個人の発表だと自分の思う曲、思う顔ぶれでやれるわね。大きい機構だから個人の意見をはさめないけれど、それだからこそ能がやれるんですわね。でも意欲を持っている人がずいぶん増え



沼 紳雨さん



小泉康夫さん

てきましたよ。大阪では、山本真義、大槻文蔵、山中義滋さんら若手が意欲的に動いています。

小泉 そういう意味では杉浦元三郎、吉井順一、藤井徳三、大西智久さんらが主催した、「蘭の会」を去年スタートさせましたね。今年は神戸でやる予定ですが。

沼 家元の直系ばかりですね。家元直門が集まって勉強しているという謙虚な姿勢はいいことです。しかしバランスがおかしところがある。家元の弟子であるというより、研究所から出ていくと

いうつましやかさが欲しい。また家柄のいい人達だから背伸びして立派なものをやろうとしてもいいと思いますよ。

小泉 残念なのは、神戸に能楽殿ができながら、これといった意欲的な企画がないんですね。ただ、例会をやっているだけです。これから夜能ですか、長く続けていくことで企画がたてられたらいいですが。福田和夫さんが中心になって企画を進めているらしいですよ。

沼 それは結構ですね。京都では若手の能が非常に盛んです。ファンもたくさんいる。若い人がいいのは、芸が正直で素直なことですね。中途半端にすると具合が悪くなるが。純真な芸が高校野球的に一般に受けているんですよ。上手、下手をのけて、気持がいいんですよ。そんな若手が夜能なんかやると、勤労層、学生層に受けるわけです。舞台があればどんどんやったらいいですよ。中堅層や元老たちへの刺激にもなりますしね。例会はあくまでも一門の稽古舞台であって、その他に舞台が必要だと思えますね。意欲が大切。

小泉 三役の数の減少が目立ってきて心配してはいますが。これは神戸だけの問題ではなく大切な問題なんです。

沼 全部が盛んになって若い人のし上ってくると、三役にも若い

人が出てくると思いますよ。東京のワキでも、宝生閑なんか非常に立派なものです。あれも若い人を相手にしているからでしょうね。松本謙三とか宝生弥一とか大物もいますが、宝生閑が非常に人気がある。若いシテを相手にして、若いワキ方が活躍する場が出てくれば、一挙に若手の腕もあがるし後に続く人も陽が当るならば、やりたい人が出てくるでしょう。今までは三役以外は陽が当らなかつたからね。

小泉 実際に企画を実行する場所があれば能はもっと盛んになるでしょうね。去年は、五月の別会能と十月の神戸能の他に、神戸観世会の定期能がありました。神戸観世会の会長は家元、理事長が藤井久雄さんと非常にレベルは高いんですが。それ以外は、新しく始めた学生能ですね。それから「蘭の会」と、この辺が、去年の大ざっぱな動きです。神戸能楽殿ができたのも神戸能がうまくいったのも藤井久雄さんの功績というところになりますね。しかし、この方は重要無形文化財の総合指定も受けられている人ですしね。

沼 その点で藤井久雄、上田照也の両氏を除くとすれば吉井順一、藤井徳三さんが上ってきましたね。

小泉 神戸能の「安宅」の同山の入達をみますと、皆さんしっかり

勉強されていますね。

沼 この年代は意欲的でいいんですよ。この人たちが自分のやりたものの「巴」とか「田村」などを選んで夜能あるいは三番能をやるとおもしろいですよ。

小泉 吉井さんはいかがですか。

沼 お父さんが亡くなってから、がんばっていますね。彼は見込みがありますよ。

小泉 しっかりしていますね。

沼 お父さんは、地味だけれども格調の高い立派な人でしたよ。

小泉 そういう評価も大事ですね。

沼 藤井さんより若手といえは勝部全一さんもいいですね。奨励賞の意味になります。吉井さんの場合ですと別会能での「道成寺」の演技ということでしょうね。

沼 神戸のワキでは若手の植田隆之亮がいいですよ。

小泉 そうですね。

沼 若手が少ないからね。

★銜いのない芸でファンを握む

吉井順一に

小泉 吉井順一さんの芸について、先生はどうお考えですか。

沼 吉井さんは、銜いのない芸で、これは非常に大事だと思います。今はタレント意識をもってやりたがる人が多い。そういう時にコッコツと素直にやっている。タ

レント意識、悪くいえばハッタリね。必要といえれば必要だが、つけ焼刃では、はげる時がある。コッコツとがんばってきたものは、大成というか名を成すのは遅いけれど、地道にファンを握みますね。

吉井さんだということです。これだけの大曲をやっているのだから。

小泉 吉井さんに決めましょうか。

沼 ちょうど地謡もいいし鐘後見もいい。ワキもいいし、三役も若手ばかりとはいえないが新鮮なメンバーでやっている。神戸の観世オールメンバーが一人をもちたててやっているの、みんなの顔も立つし、吉井さんの力だけでなしに、みんなを代表して吉井さんが賞をもらうということになっていいんじゃないか。そして、これを

機会に自信を持って歩み出してほしいですね。吉井さんは決してまちがった勉強はしてないのだから、遠慮なくそれを發揮してほしい。大いに自信をもつて進んでいってもいいですよ。

小泉 彼は難声を少し気にしているようにですよ。

沼 彼のは難声の中に入らないですよ。難声というのはもつとわからん所があるもんですよ。ただ、彼は遠慮がちだから難声だと思っているのとちがうかな。それでもまだ彼が難声だと思ふのなれば、それをいかに美声にきかすかのテ

クニツクを学んだらよろしい。

小泉 それはそうですね。

沼 観世華雪さんでも低い声だけでなく、低い声なりに遠くまでとる声です。橋岡久太郎さんにしても、野口謙介さんにしても金春八

条さんでもわからないほどの難声ですよ。それが名人といわれた人たちですよ。難声、それを打ち破れということですよ。自分でわかっているのなら、なおさらそれを克服して、説得力のある謡いをやってもいいですよ。

小泉 これを機会に発奮を促してがんばってほしいですね。

沼 ブルー・メール賞というのは、可能性を引き出すところに意義があるから、完成された人よりも、未来のある人ということ、吉井さんは適任ですよ。

小泉 形なんかもいい姿をしていますものね。

沼 昔の人をみて、美声の人に名人は出ていない。声が悪いとか身体が小さいとか、そういう欠点のある人の中から名人が出てくる。それをカバーするのに人一倍努力するんですよ。彼の場合、気にするほどの難声でもないですから、これからは大いにやってほしいですね。そうでなかったら何倍かにして賞を返してもらわないかん(笑)。

(竹葉亭にて)

フランス風卷せんべい
パピヨット

フレッシュなバターが
たっぷり入って
新しい味に 生まれ
かわりました。



古い老舗に新しい味覚

神戸  元町


風月堂

神戸市生田区元町 3 丁目 1 9 5
TEL. 391-2412 ~ 5

紳士の風格を表現する……



O-SHIBATA

 **柴田 音吉 洋服店**

神戸・元町 4 丁目南 神戸 341-0693
大阪・高麗橋 2 丁目 大阪 231-2106